

日本環境教育学会 関西支部通信
関西

たこめ、る

NO. 14

1992. 10



第22回 関西ワークショップ

日 時：10月31日（土）午後2時30分～5時

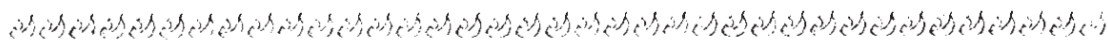
会 場：大阪教育大学，天王寺分校，12 教室

話題提供：「総合学習『環境学』への取り組み」

奈良女子大学附属高等学校

武田 章さん（社会科），出野上良子さん（保健体育科）

中道貞子さん（理 科），藤川宣雄さん（理 科）



日本環境教育学会関西支部

第1回 研究大会

日 時：11月21日（土） 9:50～17:00

会 場：甲南大学 10号館 1021号室 1011号室

（阪急電車神戸線「岡本駅」JR「本山駅」下車 徒歩10分）

日程

9:30~	受付	+
9:50~10:00	あいさつ	+ ※終日、環境教育に関する
10:00~12:00	一般報告	+ 展示があります
(昼休み)		+
13:00~14:00	一般報告	+
14:10~17:00	シンポジウム	+

「環境教育の今日的課題」

- ◆基調講演 鈴木 善次 (大阪教育大学)
- ◆パネルディスカッション
コーディネーター 谷口 文章 (甲南大学)
パネリスト 赤尾 整志 (グローバル環境文化研究所)
高田 研 (豊中市立第八中学校)
山本 幹彦 (豊京都ユースホテル協会)
藤岡 達也 (大阪府立勝山高等学校)
原田 智代 (大阪教育大学)

17:30~19:30 懇親会

一般報告プログラム

- [自然環境分科会] 1021号室 座長：山田 卓三 (兵庫教育大学)
- 10:00~12:00
- ①子どもの「自然イメージ」-大阪市・福岡市の小学生の絵の分析-
楠田 直美・深沢 健治 (大阪教育大学)
 - ②自然とのふれあいと環境問題への関心-大阪市内小・中学生の意識調査から-
谷村 載美 (大阪市教育センター)
 - ③自然保護と生態学
金井塚 勤 (宮島の猿と博物館活動を守る会)
 - ④自然学校・理念と活動
好廣 真一 (龍谷大学)
- 13:00~14:00
- ⑤宮島における自然教育
菊間 かおる (宮島の猿と博物館活動を守る会)
 - ⑥東京都に於ける環境教育研究の現状
斎藤 三男 (東京都日野台高等学校)

[人間環境分科会] 1011号室 座長：横村 久子（奈良文化女子短期大学）
10:00～12:00

①自然との「共鳴感」の提案

本庄 眞（奈良県東櫛原小学校）

②人文地理学と環境教育

久武 哲也（甲南大学）

③生産から廃棄までの道程を考える－環境教育のための－提案－

山田 弘司（日本非鉄金属問屋組合全国連合会）

④企業における環境教育

中丸 寛信（甲南大学）

13:00～14:00

⑤環境権をめぐる判例－環境教育への示唆－

北村 真（弁護士）

⑥精神環境と人間性－実存分析の視座から－

小谷 英子（大阪大学）

※ パネル展示の
御希望がありましたら
返信葉書で
御一報下さい。



（問い合わせ先）◆日本環境教育学会関西支部 事務局

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88

大阪教育大学環境科学教育研究室 気付

☎06-771-8131（内線417）

◆甲南大学 文学部 社会学科 谷口研究室

☎078-431-4341（内線553）



EARTH EDUCATION

スティーヴ・バン・メーター氏 来る！

日時 1回目 10月24日（土）午前9時～午後5時

2回目 10月25日（日）午前9時～午後5時

各回40名程度（申し込みの際希望日を申し出て下さい。）

場所 吉田山 京都市左京区（詳しいことは参加者にお知らせします）

主催：環境市民基金設立準備会（環境教育グループ）（075）211-7462

日本環境保護国際交流会 後援：京都ユースホステル協会

1992年6月、人類はいずれの道を選択したのか。ブラジル、リオデジャネイロで開かれた「地球サミット」は、人類文明史上の重要な転換点と位置づけられる事になるだろう。

「我々に次の20年があるわけではない。世界の人々と指導者の見守る中で決定された会議の成果は、よりよい未来へ向けて行動し、実行しなければならない」。6月14日すべての会議を終えたモーリス・ストロング地球サミット事務局長は訴えた。

「持続可能な開発」はありえない

今回の地球サミット最大のテーマが「持続可能な開発」の理念に基づく「環境と開発」である。先進国の主張する環境と途上国の欲する開発。その裏にある先進国の浪費社会と途上国の絶対的貧困。私の心の中にトゲのように刺さっていた疑問がリオに来てははっきりした。人間に都合のいい「持続可能な開発」そんなものはないということが。

先進国が今の豊かで便利な社会を持続し、途上国も豊かな社会に成長するための資源の利用。視点を変えれば、先進国が豊かな社会を維持し続けるための資源取奪は先進国にとって都合のいい構図でしかない。カナダ・コロンビア大学のデビッド・スズキ教授は「先進国の11億人が地上の富の82%を独占、韓国、台湾など中進国の10億人が12%、それ以外の34億人がわずか6%の富にしがみついている現実を直視したなら“持続可能な開発”は非現実的である」と言う。途上国の立場から発言した第三世界ネットワークのマーチン・コウは「富める者が消費を落とさなければ貧しい者はますます開発と生活水準を搾取される。途上国は世界と同様に自国の環境改善をするためによりよい基準を提議し続けるべきである。環境保護に力を注ぐことは、結局自国の利益になる」と訴えた。この二人の言葉の重味を私たちは真摯に受けとめなければならない。なぜなら、地球環境問題の核心は先進国の「富」（権力）と途上国の貧困（剥奪）であり、そこには人権（特に子どもたち）の問題が深く横たわっているから。

長年、地球環境の危機を訴えてきたレスター・ブラウン米国ワールドウォッチ研究所長は「今こそ農業革命、産業革命に次ぐ人類史上第三の革命“環境革命”を起こさねばならない」と警告する。

環境教育の社会性

世界の市民がリオデジャネイロに集まり、活発な交流をした。グローバルフォーラム92に参加した国際NGOフォーラム 187カ国のNGOによって、本会議の動きとは別に、「NGO条約」が制定された。これは倫理規範、貧困、代替経済モデル、女性、消費とライフスタイル、環境教育などの34項目からなっている。その中の「持続可能な社会及び地球規模の責務のための環境教育に関する条約」について見てみよう。

この条約は、理念／原則／行動計画／推進体制／対象／資金で、構成される。特に、社会運動としての環境教育の位置付け、その目的と果たすべき役割に関して次のように述べられている。

- ①環境教育は中立的でなく、イデオロギーに基づくものであり、政治的な行為である。
- ②環境教育はいかなる教育であれ、あらゆる時、場所においても批判力のある斬新な思考に根ざし社会の変革と建設を推進するものである。
- ③総合的な教育方法を取るものであり、人間、宇宙、自然の関係を学際的な（学問領域を越えた）視点から重視するものである。
- ④環境教育によって、地域社会が自らの未来を自らの手で決定する力を取り戻さねばならない。

環境教育の普及、啓発活動は重要な問題だ。その時、同時に環境教育が今日の文明・文化・社会体制の変革の可能性を内包していること、社会運動としての側面を持つことを、それに携わる者がもっと自覚しなければならないのではないか。これは私たち自身の価値観、意識変革の問題でもある。世界市民による社会文脈、地球レベルの文脈を、日本の環境教育も今一度問い直す必要があるのではないだろうか。

地球サミットの開催で、人類は「地球環境の保全」という大事業のスタートについたところである。人類を含む生態系を、子孫に残せるかどうか。参加した一人ひとりがそれぞれの国に持ち帰り、取り組むことから始まる。私の第一歩は、先住民族の生活文化や、日本人が失った自然と共生した日本文化のディテールを見つめ直すこと。そこから21世紀の「環境文化」が見えてくると考えるから。

いま、私たちは分岐点に立とうとしている。行く道を間違えば、いつの日か私たちはそれを悔やむことになる。



マザーアース

エデュケーション

Mother Earth Education (M. E. E) 松木 正



松木さんに じっと見つめられると、オーッと吸い込まれてしまいそうな魅力的な人である。彼は仕事をやめちかって、アメリカ各地の教育キャンプを修業して帰国はしな。その甲斐いき着いたのがアメリカのネイティブのヌマの生ヨウそのものだ。そうである。現在は高槻市のキャンプ場におお

ある日のこと、ある犬の上で2匹のノミ達が何やら口論している。

ノミA: 「この犬はオレの犬だ！」

ノミB: 「いいや、これはオレの犬だ！」

もしこんな会話が聞こえてきたら、あなたは全く滑稽なアホな話だと思ってしまうでしょう。すべてのノミに、新鮮な体液を吸わせて養ってあげているのは、ただならぬ犬くんであり、本当は、その犬こそノミにとっては、あまりにも偉大な存在であるはずなのに.....

そのちっぽけなノミが、偉大な犬の所有権を主張するなんて... ねえ！

さて、そのバカなノミ達ですが..... 口論の後、ますます所有権の主張を競うかのように、その犬の体液をジュッパジュッパ吸い続け、とうとう犬は死んでしまいました.....。それでそのバカなノミ達は、どうなったかって？ もうお分かりでしょう？

でも私達人間は、この地球の上でこのストーリーを聞いてアッハハハと笑ってられるのでしょうか？... ねえ？

マザーアースとは、母なる大地（地球）と訳される北米インディアンをはじめとする、世界中のNativeな人々に共通する自然観の根本を形作る概念です。マザーアースエデュケーションは、この母なる大地の上に存在する全ての兄弟姉妹（動物・植物・昆虫・人・土・水・空気...）が、その調和の中で、生き生かされていることに、遊びを通して気づきライフスタイルに変革を起こすプログラムです。

詳しくは、神戸市灘区赤松町2丁目2-14 コーポ瑞幸202号

078-856-2183まで... ☺

文献紹介 (次の2冊が関西支部に寄贈されました)

(財) 京都ユースホステル協会野外活動事業委員会

研究紀要 vol.3 (1992.9)

〔目次〕

テーマ「子どもの現状と野外活動に期待するものⅡ」

①現代の子ども達に必要なもの

佐藤 昭夫 (寝屋川市立国松緑丘小学校)

②保健室に見る生徒たち―「せんせいきて」と日々の記録より―

佐藤 邦子 (寝屋川市立第十中学校)

テーマ外投稿

③「木を学ぼう～環境教育セミナー～'92」―事業紹介「環境教育セミナー」報告―

④「藍の葉のたたき染めとすり染め」

寝屋川理科サークル 北崎 茂樹

⑤「夜空の散歩」

京都府立城陽養護学校 長藤 登

⑥『ホステリング』って何だろう

KHLOB 坂本 直弥

⑦野外炊さんについて―学校キャンプの場合―

事業委員 佐藤 昭夫 (寝屋川市立国松緑丘小学校)

(連絡先)

京都ユース・ホステル協会

〒616 京都市右京区太秦中山町29, 宇多野ユース・ホステル内

TEL 462-9185

『Oマン熱帯林へいく』(国土社)
大原興三郎・作/多田ヒロシ・絵

1992.8月発行

紙が木からできていることを知らない小学5年生のともちゃんがOマンに連れられ、熱帯雨林に行く。これまで熱帯雨林の減少についての話を先生から聞いていたともちゃんだが、その時は関心が無く、人ごととして聞き流していた。プナン族の人たちと出会い、話し、日本人の生活と熱帯雨林とが関係あることを知る。それに熱帯雨林の減少は「木材を買う側、売る側、どちらが悪い」といった簡単な話ではなさそうだ、ということも感じるともちゃん。・・・

さて、ともちゃんをひとつ飛びで熱帯雨林へ連れていったOマンとはいったい何物？それは読んでのお楽しみ。生き生きとして読むものをひきつけます。それに何より物音全体に込められている著者のメッセージが胸を熱くします。(原田)

ネットワーキ

法然院 森の教室「大文字山はハゲ山だった」

11/29 (日) PM1:00~3:30

講師 小椋 純一氏 京都精華大 教員

〒606 京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町 075-771-2420 久山

パソコンを使った環境教育セミナー「あなたOTAKUが地球を救うひとつの方法」

11/14 (土) ~ 15 (日) 場所 関西学院千刈キャンプ

主催 関西学院 聖マーガレット生涯教育研究所

〒669-13三田市香下銭岩 0795-63-5233 FAX 63-5235 担当 岡

環境教育レンジャートレーニング「MOTHER EARTH EDUCATION」

講師 松木 正

12/11 (金) ~ 13 (日) 場所 関西学院千刈キャンプ

主催 関西学院 聖マーガレット生涯教育研究所

〒669-13三田市香下銭岩 0795-63-5233 FAX 63-5235 担当 岡

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。また学会員外の方で環境教育に関心を持っていらっしゃる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内葉書とECOMAILを送らせていただきます。

通信費 振込先 郵便局 「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部
発行者

日本環境教育学会関西支部

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88

大阪教育大学 鈴木 善次 気付

06-771-8131 (内線417)

※ 次号は10月に予定しております。情報、原稿をお寄せください。